

菅政権による日本学術会議新会員候補者の 一部任命拒否を撤回し、提案通り任命せよ

菅義偉政権が日本学術会議新会員候補者の一部を任命拒否した。これは、学術文化への政治の介入であり許すことは出来ない。苦勞人と報道され善人として描かれた菅首相が、安倍政権の問題を隠蔽する役割だけでなく、いよいよ民主主義を支配しようとする本領を發揮した最初の出来事だ。

日本が第2次世界大戦(太平洋戦争)に参戦し、日本国民やアジアの人々に大きな犠牲を強いたことへの真摯な反省に立って日本国憲法を確立し、憲法の下で学術文化活動の政府からの独立を趣旨として、日本学術会議は設立された。

日本学術会議会員の政権による任命は、天皇が首相を任命するのと同様に全く形式的なものとしてのみ認められている。今回の任命拒否はこの反省を投げ出して戦争を起こした時代に戻ろうとするものであり、日本学術会議法第7条第2項「推薦に基づいて、内閣総理大臣が任命する」の規定に違反する違憲違法行為である。ひいては時代錯誤で展望のない民主主義への挑戦である。

菅政権は日本学術会議の要望を受け、任命拒否を撤回し、候補者を提案通り直ちに任命すべきである。

2020年10月6日
鹿児島県保険医協会
会長 高岡 茂

2020.10.7 南日本新聞

任命拒否撤回
求め談話発表
県保険医協会
日本学術会議の新会
員候補6人を菅義偉首

相が任命しなかった問題で、鹿児島県保険医協会(高岡茂会長、1256人)は6日、「任命拒否を撤回し、提案通り任命するべきだ」とする会長談話を発表した。

談話は、同会議設立の経緯について「憲法の下で学術文化活動の政府からの独立を趣旨としている」として、同会議法が定める「推薦に基づいて、内閣総理大臣が任命する」との規定に従うよう求めている。(中元聡史)